

## 58 就労移行支援における学習支援の役割

理療教育・就労支援部就労移行支援課 阿部 真市、大竹 秀一、  
遠藤 明宏、澁谷 公平

### 1. はじめに

就労移行支援では、入所時のアセスメントの段階で学習評価（国語・算数）を行い、その評価結果が小学校4年以下の者を主な対象として学習支援を実施している。今回、学習支援を受けた修了者の帰結を他の就労移行支援修了者と比較し、学習支援の有意性や効果等を検証したい。

この検証には、平成20年4月から平成26年10月までの就労移行支援修了者365名のうち、『職リハ評価を目的に入所したが否となり、就労移行支援を利用せずに退所した者』及び『発達障害の利用者（学習支援対象外のため）』を除いた322名分を用いることとする。このうち、学習支援を受けていた者は138名であった。

### 2. 学習支援状況

学習支援利用者の138名中、65名（約47.1%）が国語と算数の両方、71名（約51.4%）が算数のみの支援を受けていた。国語のみは2名（約1.4%）であった。国語は漢字と読解の課題に分かれており、算数も含め、対象者一人ひとりに合った学年の課題から支援を開始している。開始時と修了時の取り組み課題の学年を比較すると、漢字では約59.7%、読解では約44.7%、算数では77.2%が一学年以上上がっていた。中には、小学2年の課題から開始し、修了時には小学6年の課題まで進んだ者もいた。また、漢字検定合格に向けた取り組みや、時事問題・一般常識の知識の向上に向けた月例テストも実施している。

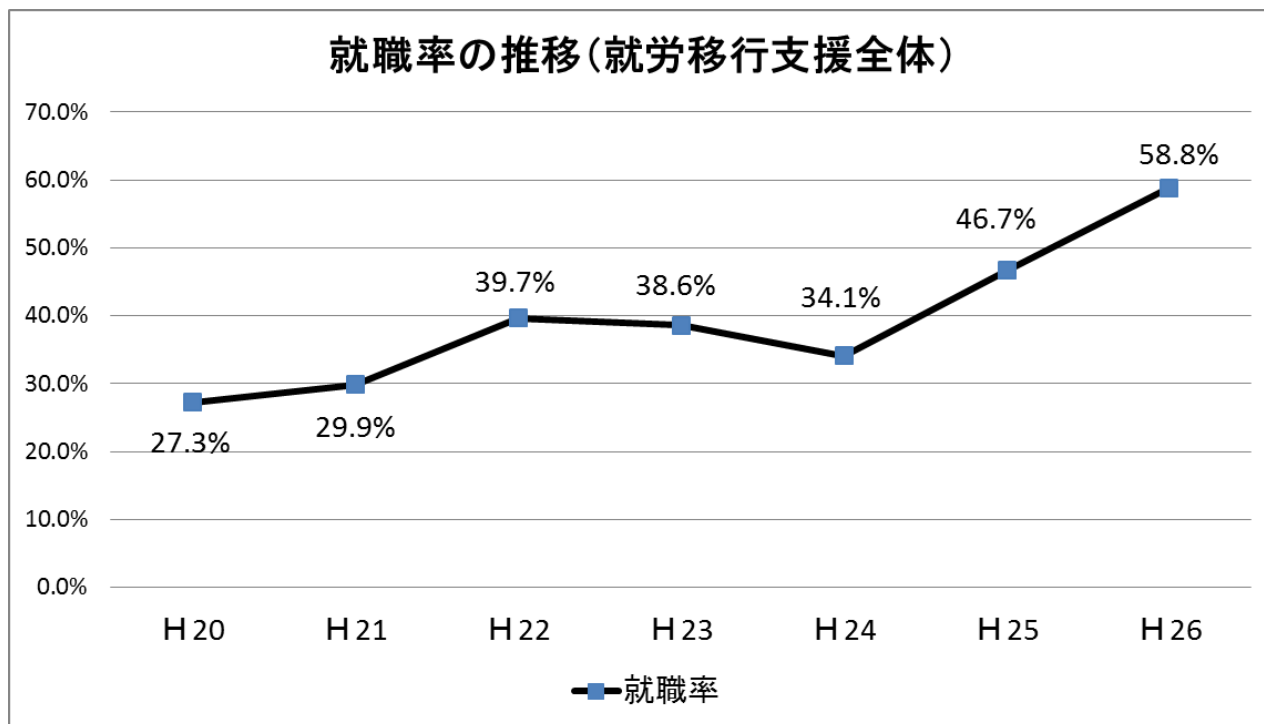
### 3. 帰結状況の比較

就労移行支援修了者の帰結状況をみると、修了者322名のうち就職（復職、自営、内職含む）した者は118名で、就職率は約36.6%であった。年度別でみると（図1）、平成22年度に40%近くとなり、平成25年度には46.7%、58.8%であり上昇傾向にある。就職率について学習支援あり・なしの2グループで比較すると、学習支援ありでは修了者138名に対し就職した者は53名（38.4%）、学習支援なしでは修了者184名に対し就職した者は65名（35.3%）であり大きな差はみられず、年度ごとの就職率（図2）で比較しても同様であった。学習支援は、初期評価の結果、支援が必要と判断された者が主な対象者であるため、他の修了者と就職率が変わらないというのは、学習支援の影響が大きいと考える。また、就職者数に対する学習支援利用者の占める割合（図3、4）をみると、平成23年度以降50%を超えており、平成25年度からは60%を超えている。なお、職リハ評価が否となって就労移行支援を利用し、就職した者は41名おり、そのうち学習支援利用者は26名（約63.4%）であった。

### 4. おわりに

今回、学習支援利用者の帰結状況を検証した結果、学習支援は就労移行支援利用者の就職率向上に寄与していることが分かった。もちろん、それは職業指導員やケースワーカー、就労支援員などすべての関係職員の支援あつてのものだが、学習支援もその一端を担えていると考えている。今後は、さらなる就職率の向上に向けて学習支援として何ができるのかを検討していきたい。

図 1



※職リハ否で退所した者、発達障害利用者は含まない

※就労移行支援後、職リハに移行した者も母数に含む

図 2

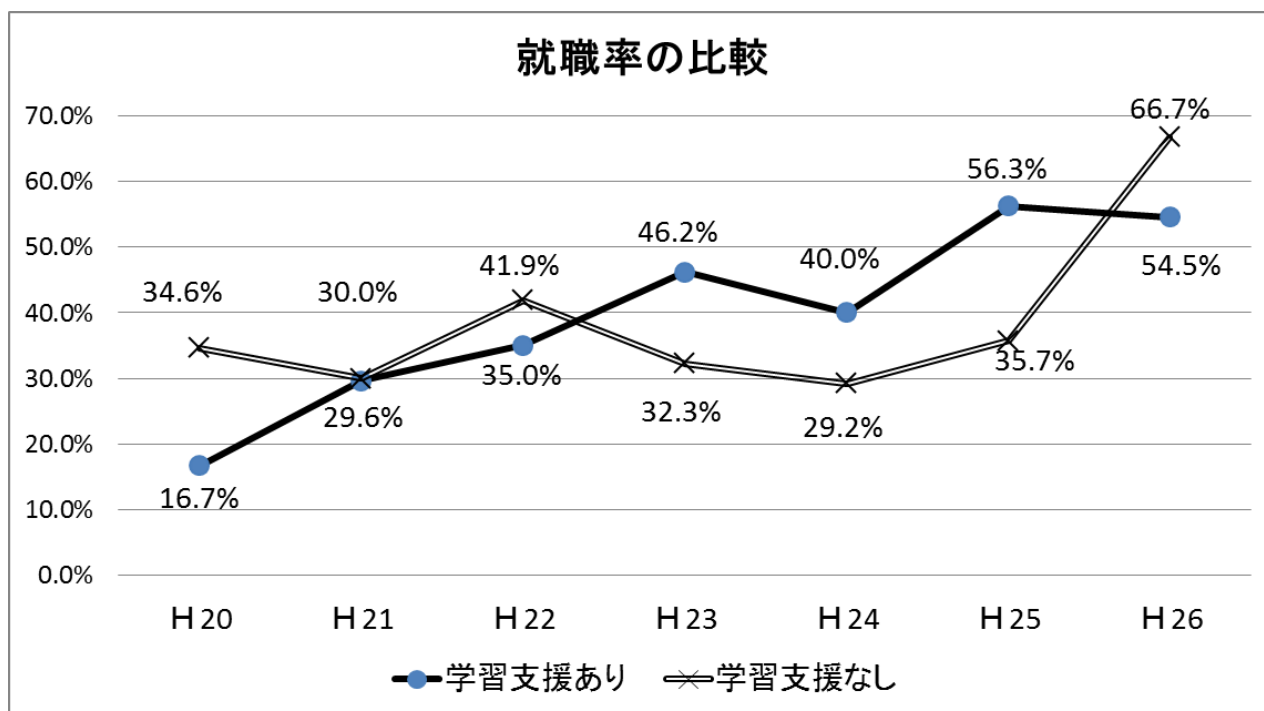


図 3

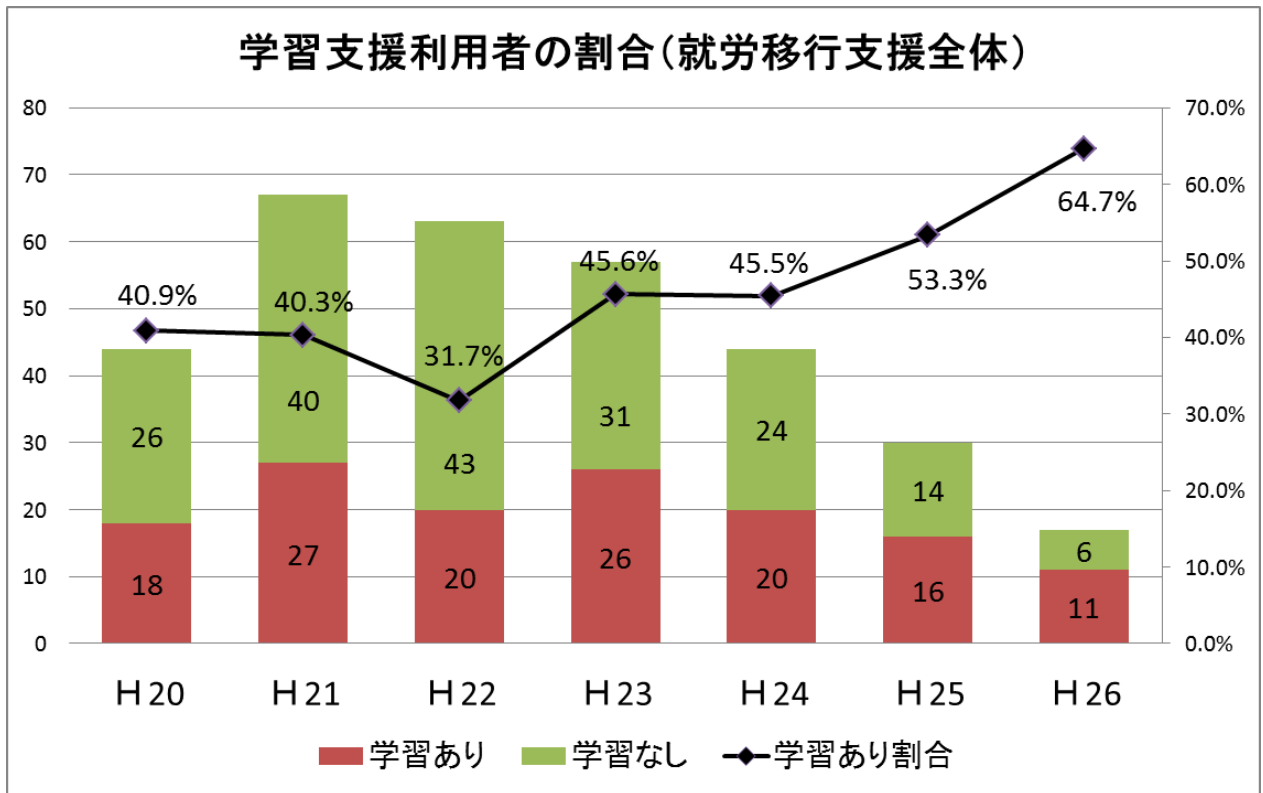


図 4

